

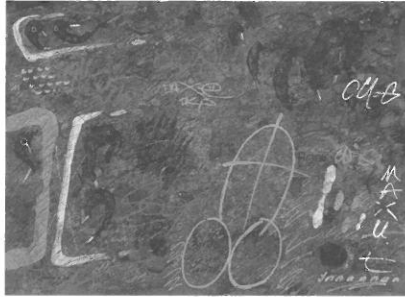
追悼 近藤文雄展

2018年 9月11日|火-12月23日|日

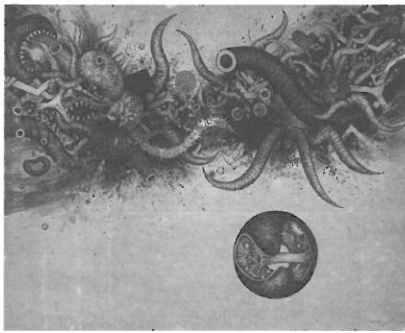
本展は昨年6月15日に79歳で逝去された画家・近藤文雄の没後1周年を悼み開催する展覧会です。近藤は、アンデパンダン展や自由美術展などに出品しながら前衛美術会(現 outcomes)会員として活動する一方、美術教師として後進の育成にも尽力し、多くの作家を育てました。

独特なペン画はシニカルでありながらどこかユーモアがあり、社会的な問題を含んだ人物風刺画を得意としました。卓越したテクニックで細密描写を行い、そのクオリティーは晩年まで衰えることはありませんでした。

本展は、ご遺族の協力のもと郷土を代表する画家・近藤氏の画業を改めて紹介するものです。



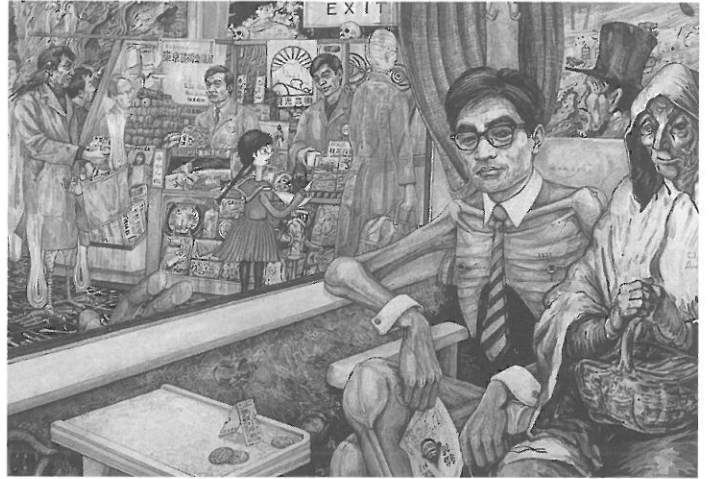
《婿の壁穴(し)》1991年



《ハラカラノウタIV》1961年



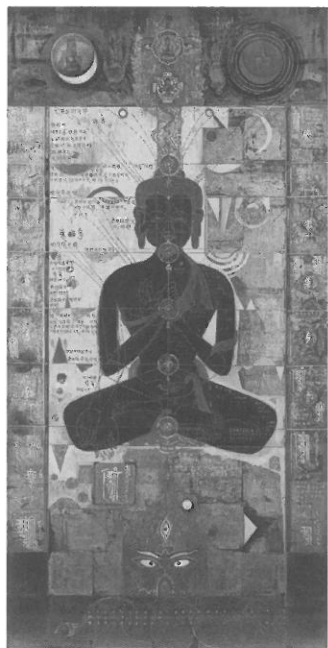
《学級が燃える》1966年(個人蔵)



《1966年2月12日19時58分43秒東京駅17番ホームと“こだま”203号2号車内10E座席のKON-230氏》1966年(個人蔵)

🌟 ギャラリートーク 9月30日|日、12月9日|日 14:00~
当館学芸員による展示説明会

TOYOKAWA CITY SAKURAGAOKA MUSEUM



《タントラ考II》1991年



《病める友》1955年

卒寿記念

高畑郁子展

2018年 12月25日|火-2019年 3月24日|日

昭和4年、千葉県印旛郡に生まれた高畑郁子は、生後まもなく豊橋市へ転居します。豊橋市立高等女学校(現豊橋東高等学校)で石川新一に水彩画を学び、独学で日本画をはじめました。そして星野真吾、中村正義、大森運夫、平川敏夫と「中日美術教室」の開設に参加しました。現在も教室を継続し、多くの後進育成に貢献されています。また創画会会員としても活動しました。

初期のキュビズム表現は、次第に民俗風習や仏教モチーフを文様化し密度が高く画面を埋め尽くす構成へと変化し、独特な構成画を創り出してきました。本展は、郷土を代表する日本画家・高畑郁子の卒寿を記念し、彼女が歩んできた画業を回顧するものです。



《夜花》1962年

交通案内

電車 JR飯田線「豊川」駅・名鉄豊川線「豊川稲荷」駅
下車徒歩約15分
車 東名高速道路「豊川IC」から約10分
(無料駐車場約100台/公園と共有)
※土日は混雑が予想されるため、公共交通機関利用や
乗合せにご協力ください。
〒442-0064 愛知県豊川市桜ヶ丘町79-2
Tel. (0533) 85-3775

